



今日のキーワード 『街角景気』は新型コロナの影響で大幅に悪化

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。3月の『街角景気』では、新型コロナ感染拡大の影響で現状判断指数（DI）、先行き判断指数（DI）ともに、先月に引き続き大幅な低下となりました。

ポイント1

現状判断DIは前月比▲13.2ポイントの大幅低下で14.2 先行き判断DIも▲5.8ポイントの18.8と、先月に続き大幅低下

- 3月の『街角景気』によると、現状判断DI（季節調整値）は前月比▲13.2ポイント低下し14.2と統計開始以来で最低の水準となりました。先月は前月比▲14.5ポイント低下でしたので、2カ月連続の大幅低下となりました。項目別では家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全てにわたって大幅な低下となっています。新型コロナの影響により、街角の景況感が極めて深刻な状況にあることが確認できる結果となりました。
- 先行き判断DIは前月比▲5.8ポイントの18.8となりました。先月は前月比▲17.2ポイント低下でしたので、低下幅は縮小しましたが、引き続き大幅低下となりました。項目別では雇用関連が大きく低下しており、新型コロナの影響が雇用環境を脅かしていることがわかります。

ポイント2

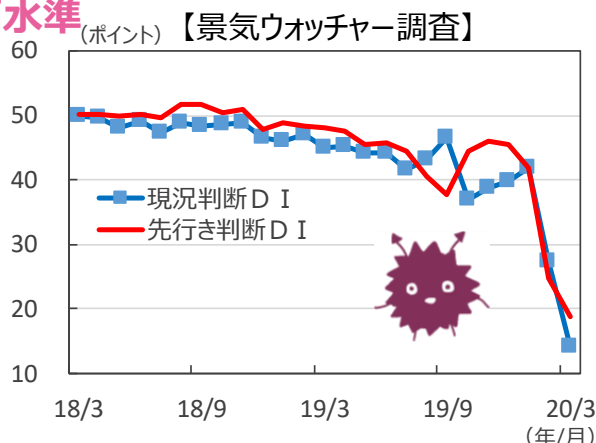
現状コメントは「コロナ・肺炎」が高水準 不安にかかわる用語が高水準

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントにおける単語の使用数は、ネガティブな単語の使用比率がポジティブな単語を6か月連続で上回り、両者の差は大幅に拡大しました。「コロナ・肺炎」の急増が継続しており、不安にかかわる用語が高水準で推移しています。
- 先行き判断については、ネガティブな単語の使用比率がポジティブな単語を3か月連続で上回りました。こちらも「コロナ・肺炎」の使用が依然高水準です。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

（注）データは2018年3月～2020年3月。

（出所）内閣府のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



今後の展開

景況感は大幅に悪化。新型ウイルス感染収束が待たれる。

- 内閣府は『街角景気』について、「急速に厳しい状況となっている」から「極めて厳しい状況にある」に下方修正しました。先行きについても「一段と厳しい状況になるとみている」から「一段と厳しさが増すとみている」と先行きの厳しさを強めました。政府は7日に緊急事態宣言を発令し、合わせて大型の経済対策を示しました。早期の感染収束が待たれます。

ここも チェック!

2020年4月 8日 各国・地域は『新型コロナ経済対策』を発動

2020年3月25日 注目される『新型コロナウイルス治療薬』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。